

建築・環境学部共通科目 教育課程表

2023年度以降入学生用

◆：科目名変更あり。変更内容は科目表を参照のこと。

分野	1・2セメスター		3・4セメスター		5・6セメスター		7・8セメスター		卒業要件 単位数	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期		
必修科目	教養科目 人文	キリスト教学(2)	キリスト教学 (技術者としての倫理) (2)						4単位	
	外国語科目 英語	総合英語(リーディング) (1) 春・秋学期：総合英語(オーラルコミュニケーション) (1) 春・秋学期：総合英語(ライティング) (1)	総合英語(リスニング) (1)						4単位	
選択必修科目	秋学期(1-8セメスター)：かながわ学(IT産業) (2) かながわ学(環境) (2) 春・秋学期(1-8セメスター)： KGUかながわ学(2)								2単位	
選択必修科目	英語	春学期(1-8セメスター)： 英語講読(科学・基礎) (1) 英語講読(科学) (1) 資格英語(TOEIC基礎) (1) 資格英語(TOEIC中級) (1) ◆【廃】資格英語(技術英検) (1) オーラルコミュニケーションI (1) 留学英語(1) 秋学期(1-8セメスター)： 英語講読(科学) (1) 英語講読(文学) (1) 資格英語(TOEIC中級) (1) ◆【廃】資格英語(技術英検) (1) 英語講読(論文) (1) 英語講読(時事英語) (1) ◆アカデミックプレゼンテーションI (1) アカデミックプレゼンテーションII (1) オーラルコミュニケーションII (1)								英語またはその 他外国語科目から同一語科目で4単位
	外国語科目	秋学期(3-8セメスター)： 資格英語(TOEIC上級) (1) アカデミックライティングI (1) アカデミックライティン								
	ドイツ語	ドイツ語IA(文法) (1) ドイツ語IIA(読解) (1)	ドイツ語IB(文法) (1) ドイツ語IIB(読解) (1)							
	フランス語	フランス語IA(1)	フランス語IB(1)	フランス語IIA(1)	フランス語IIB(1)					
	中国語	中国語IA(1)	中国語IB(1)	中国語IIA(1)	中国語IIB(1)					
	スペイン語	スペイン語IA(1)	スペイン語IB(1)	スペイン語IIA(1)	スペイン語IIB(1)					
	ロシア語	ロシア語IA(1)	ロシア語IB(1)	ロシア語IIA(1)	ロシア語IIB(1)					
複合	KGUキャリアデザイン入門1(1) KGUキャリアデザイン入門2(1)									
教養科目	人文	春学期(1-8セメスター)： 文学I(2) 哲学I(2) 歴史学I(2) 論理学I(2) 文化人類学I(2) 秋学期(1-8セメスター)： 日本事情(人文) (2)								14単位(外国語科目の 選択必修科目4単位分は除く)
	社会	春学期(1-8セメスター)： 経済学I(2) 社会学(2) 法学(2) 憲法(2) 政治学I(2) 心理学I(2) 秋学期(1-8セメスター)： 経済学II(2) 社会福祉論(2) 法学(2) 憲法(2) 政治学II(2) 心理学II(2) 日本事情(社会) (2)								
	複合	教養セミナー(2) 秋学期(1-8セメスター)： Japanese Culture and Society I (2) Japanese Culture and Society II (2) KGUデータサイエンス演習(2) 秋学期(2-5セメスター)： KGUキャリアデザイン基礎(2) 春学期(3-5セメスター)： KGUキャリアデザイン基礎2(2) 秋学期(3-8セメスター)： ◆KGUキャリアデザイン応用(2) 春・秋学期(1-8セメスター)： ソーシャルサービス(2) KGUキャリアスタディ(2)								
	自然	日本事情(自然) (2)								
保健体育科目	健康スポーツI(1)	健康スポーツII(1)	健康スポーツIII(1)	健康スポーツIV(1)	春学期(5-8セメスター)： 健康スポーツV(1) 秋学期(5-8セメスター)： 健康スポーツVI(1) 【廃】武道指導論I(2) 【廃】武道指導論II(2)					
外国語科目	ドイツ語	春学期(3-8セメスター)： ドイツ語III A(1) 秋学期(3-8セメスター)： ドイツ語III B(1)								
	日本語/演習	日本語IA(1) 日本語IIA(1)	日本語IB(1) 日本語IIB(1)	春・秋学期(1-8セメスター)： 海外語学演習(英・中・韓・仏・独) (2)						自主 選択 学修 科目

専門基礎科目、専門基礎科目、専門応用科目、自主選択学修科目を含めて124単位以上

◆：科目名変更あり。変更内容は科目表を参照のこと。

分野	1・2セメスター		3・4セメスター		5・6セメスター		7・8セメスター		卒業要件 単位数	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期		
必修科目	人文	キリスト教学(2)	キリスト教学 (技術者としての倫理)(2)						4単位	
	英語	総合英語(リーディング)(1) 春・秋学期：総合英語(オーラルコミュニケーション)(1) 春・秋学期：総合英語(ライティング)(1)	総合英語(リスニング)(1)						4単位	
選択必修科目	秋学期(1-8セメスター)：かながわ学(IT産業)(2) かながわ学(環境)(2) 春・秋学期(1-8セメスター)：KGUかながわ学(2)								2単位	
選択必修科目	英語	春学期(1-8セメスター)： 英語講読(科学・基礎)(1) 英語講読(科学)(1) 資格英語(TOEIC基礎)(1) 資格英語(TOEIC中級)(1) ◆【廃】資格英語(技術英検)(1) オールコミュニケーションI(1) 留学英語(1) 秋学期(1-8セメスター)： 英語講読(科学)(1) 英語講読(文学)(1) 資格英語(TOEIC中級)(1) ◆【廃】資格英語(技術英検)(1) 英語講読(論文)(1) 英語講読(時事英語)(1) ◆アカデミックプレゼンテーションI(1) アカデミックプレゼンテーションII(1) オールコミュニケーションII(1)								英語またはその他外国語科目から同一語科目で4単位
	外国語科目	秋学期(3-8セメスター)： 資格英語(TOEIC上級)(1) アカデミックライティングI(1) アカデミックライティングII(1)								
	ドイツ語	ドイツ語IA(文法)(1) ドイツ語IIA(読解)(1)	ドイツ語IB(文法)(1) ドイツ語IIB(読解)(1)							
	フランス語	フランス語IA(1)	フランス語IB(1)	フランス語IIA(1)	フランス語IIB(1)					
	中国語	中国語IA(1)	中国語IB(1)	中国語IIA(1)	中国語IIB(1)					
	スペイン語	スペイン語IA(1)	スペイン語IB(1)	スペイン語IIA(1)	スペイン語IIB(1)					
	ロシア語	ロシア語IA(1)	ロシア語IB(1)	ロシア語IIA(1)	ロシア語IIB(1)					
	日本語	日本語IA(1) 日本語IIA(1)	日本語IB(1) 日本語IIB(1)							
	複合	KGUキャリアデザイン入門1(1) KGUキャリアデザイン入門2(1)								
	人文	春学期(1-8セメスター)： 文学I(2) 哲学I(2) 歴史学I(2) 論理学I(2) 文化人類学I(2) 秋学期(1-8セメスター)： 日本事情(人文)(2)								
社会	春学期(1-8セメスター)： 経済学I(2) 社会学(2) 法学(2) 憲法(2) 政治学I(2) 心理学I(2) 秋学期(1-8セメスター)： 経済学II(2) 社会福祉論(2) 法学(2) 憲法(2) 政治学II(2) 心理学II(2) 日本事情(社会)(2)									
複合	教養セミナー(2) 春学期(1-8セメスター)：KGUデータサイエンス概論(2) 秋学期(1-8セメスター)：◆Japanese Culture and Society I(2) Japanese Culture and Society II(2) KGUデータサイエンス演習(2) 秋学期(2-5セメスター)：KGUキャリアデザイン基礎(2) 春学期(3-5セメスター)：KGUキャリアデザイン基礎2(2) 秋学期(3-8セメスター)：◆KGUキャリアデザイン応用(2) 春・秋学期(1-8セメスター)：ソーシャルサービス(2)									
保健体育科目	健康スポーツI(1)	健康スポーツII(1)	健康スポーツIII(1)	健康スポーツIV(1)	春学期(5-8セメスター)：健康スポーツV(1) 秋学期(5-8セメスター)：健康スポーツVI(1)					
外国語科目	春学期(3-8セメスター)：ドイツ語III A(1) 秋学期(3-8セメスター)：ドイツ語III B(1)									
演習	春・秋学期(1-8セメスター)：海外語学演習(英・中・韓・仏・独)(2)								自主選択学修科目	

専門基礎科目、専門基礎科目、専門応用科目、自主選択学修科目を含めて124単位以上

建築・環境学部専門基幹科目 教育課程表

2017年度以降入学生

◆：科目名変更あり。変更内容は科目表を参照のこと。

分野	1・2セメスター		3・4セメスター		5・6セメスター		7・8セメスター		卒業要件 単位数	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期		
専門基幹科目 選択	必修	概論目	理工学概論(2)						2単位	
		数学	微分積分学Ⅰ(2) 線形数学Ⅰ(2) 代数学ⅠA(2) 幾何学ⅠA(2)	微分積分学Ⅱ(2) 線形数学Ⅱ(2) 代数学ⅠB(2) 幾何学ⅠB(2)	代数学ⅡA(2) 幾何学ⅡA(2) 微分方程式(2) 数理統計学Ⅰ(2) 複素関数論Ⅰ(2)	ベクトル解析(2) 数理統計学Ⅱ(2) 複素関数論Ⅱ(2)			共通科目、専門基礎科目、専門応用科目、自主選択学修科目を含めて124単位以上 専門基幹科目、専門基礎科目及び専門応用科目から20単位	
		物理・ 学・生 物学 化学	物理学Ⅰ(2) 物理学Ⅱ(2) 化学Ⅰ(2) 生物学Ⅰ(2)	物理学Ⅲ(2) 物理学Ⅳ(2)	栽培Ⅰ(1)	栽培Ⅱ(1)				
		機械	機械工学総論Ⅰ(2)	機械工学総論Ⅱ(2)	木材加工Ⅰ(2) 金属加工Ⅰ(2) 機械実習(1)	木材加工Ⅱ(2) 金属加工Ⅱ(2)				
		電気			電気工学総論Ⅰ(2)	電気工学総論Ⅱ(2) 電気実習(1)				
		情報	情報基礎及び演習Ⅰ(2) 情報概論(2)	情報基礎及び演習Ⅱ(2)	プログラミング基礎(2) Webプログラミング(2)	プログラミング応用(2)				
		環境科目	環境社会論(2)	環境フィールド演習(2)	環境と化学(2) 環境地球科学Ⅰ(2)	環境生態学(2) 環境地球科学Ⅱ(2)	環境マネジメント(2)	環境と法(2)		
		インターン					春(5-6セメスター)： ◆KGUインターンシップ1(事前指導)(1)	秋(6-7セメスター)： ◆KGUインターンシップ2(実習)(1)		春学期(5-8セメスター)：【廃】インターンシップA(2)(※1)
		教職			春学期(1-8セメスター)：職業指導1(2) 秋学期(1-8セメスター)：職業指導2(2)					

※1：2017～2020年度入学生開講科目

		目的等		
専門基礎科目		理学、工学、工業の基礎的な事項を学び、建築・環境学の各分野がどのように位置づけられるかを学ぶ。		
専門基礎科目	ワークショップ	ものを図面やデッサンで表現する技術、模型製作のスキル、模型を用いた建築空間の表現方法などを演習を通して学ぶ。また、仮想的な建築に関する対象物を協働し実際に建設することで、企画から設計、施工、解体、資材確保、再利用までを学ぶ。以上のような体験を通じて、建築・環境学に必要な表現能力や企画力、協調性などを身につける。		
	CAD	建築設計を実施する際に必須となっているCADを利用できるスキルを、平面から立体、レンダリング表現まで演習を通して身につける。		
	数学・法規・測量	(数学系科目) 建築・環境学を学ぶ上で必要となる、数学、物理の基礎的な要素を学び、論理的思考を身につける。 (法規、測量学) 建築に関わる法規の適用方法を理解すること、また土地や建物を測量する技術を学び、実務的な展開能力を獲得する。		
	建築設計製図	建築設計における設計図の役割を理解し、立体物を平面に描くことを学び、建築物の各種図面、表現方法を理解する。その上で、学んできた建築の知識を統合して、住宅やオフィスビルなどの設計演習を実施し、基礎的な建築設計技術を習得する。		
専門応用科目	コース・コア	建築エンジニアリングコース	建築構造や材料・施工に関わる設計・施工、開発、維持管理といったエンジニアリング技術を専門とする分野に携わる人材を育成する。	
		建築デザインコース	建築に対する幅広い基礎的な素養を身につけると共に、構造、材料、環境・設備等の分野も総合的に考え、建築の計画・デザイン(設計)を実践できる感性と能力を有する人材を育成する。	
		まちづくりデザインコース	都市計画・地域デザインやまちづくり分野、また都市や建物の再生計画、リフォーム、コンバージョンなどを専門とする分野に携わる人材を育成する。	
		すまいデザインコース	すまいに関する知識をもとに、戸建住宅や集合住宅などの様々な用途の住宅の計画と設計やインテリアと家具のデザイン、さらには住居後のメンテナンスとリフォームに関する分野まで幅広く携わる人材を育成する。	
		環境共生デザインコース	建物の環境・設備に関わる設計・施工、開発、維持管理といったエンジニアリング技術を専門とする分野、さらにそれらの技術と建築設計とを総合的に捉えてデザインする分野に携わる人材を育成する。	
	デザイン分野	建築計画・デザイン	建築デザインの基礎を学び、建築設計に必要なとされる素養を身につけるための領域である。初年次では、人間工学や環境心理学、デザイン理論等の観点から、建築デザインの基礎知識を習得する。次に建築計画学の諸知見を演習を通じて学び、空間構成の手法を総合的に身につける。さらに既存建物を有効活用する保存・再生計画に必要な知識や能力を習得する。	
		都市	ランドスケープ	都市デザインの内、景観や環境に関する内容を学ぶ領域である。歴史的・風土的側面を踏まえて、風景計画や造園、ランドスケープをデザインする際に必要とされる諸知識及び方法論と応用力を身につける。
			都市・地域	都市デザインの内、経済的、歴史的、物的、法的側面を習得する領域である。過去・現在・未来が連続する都市の空間構造、都市基盤の法的整備手法、都市計画の実務を理解し、都市空間の計画に必要な総合的理解力を身につける。
		住宅	住まいのデザインに関する基礎知識を身につける領域である。個人と家族と社会の関係、家族における世代や性、少子高齢社会等の問題を理解し、住宅を文化的、地域的、風土的な視点から読み解く力を養う。建築をめぐる経済・法律・環境面の実学的知識を学び、それらを住空間のデザインに活かす応用力を身につける。	
		家具・インテリア・テキスタイルグラフィック・照明等	商業施設、オフィス、住宅等のインテリアデザインに関する内容を学ぶ領域である。スケールにとらわれない環境デザインのありかたを学ぶ。また、家具のデザインと製作を通して、ものづくりの基礎である、原寸で考える習慣とデザインのバランスを身につける。	
		歴史	建築の歴史について、通史的に学ぶ領域である。日本と西洋における、古代から近代までの時代様式の変遷を理解して、建築デザインを学ぶ上での基礎的教養を身につける。また、近代における建築理論の変遷のアウトラインを理解する。	
	構造分野	構造力学	力学を学び、梁やフレーム、トラス構造物の応力や変形の計算方法を知る。構造設計の理論背景を理解することで、設計コードを適切に捉える素養を身につけると共に、建築物の持つ力の流れと形との関係を理解する素地を作る。	
		各種構造・計画	代表的な構造の特徴を理解した上で、設計方法や接合部などの詳細までを学び、実験から実挙動を観察し、理論との整合性を確認する。また、建築物の構造形式の分類と適用事例を知り、適切な構造形式を選択できる能力を養う。	
		耐震・振動・応用	我が国で必須となる耐震設計の体系を大まかな考え方からスタートし、建物振動の数学的取り扱い、コンピュータを用いた解析手法、地盤の影響などを学ぶことを通じて理解する。現在の構造・耐震設計方法を読み解き、新たな設計試みへの展開能力を身につける。	
		構造設計	鉄骨構造、RC構造を対象に実務設計時の行程を、演習を通して理解し、構造設計業務を適切に履行できる能力を身につける。	
材料・施工分野	材料	建築生産・材料基礎では、建築生産分野への導入教育として建築材料および施工をなぜ学ぶ必要があるのかなど、今後の学習の動機づけを行う。建築材料関係の3科目では構造材料と仕上げ材料についてそれぞれの種類、製造法、特徴、使用方法の注意点を理解し、建築技術者として仕事をしていく上での基礎力を身につける。		
	構法	建築構法では、建物の構造原理や特徴、基本部材構成など、建築物を設計し施工するうえでの基礎となる知識を身につける。構法Iでは、主に構造の基礎知識習得を目指しており、木造、鉄筋コンクリート造、鉄骨造、その他構法を扱う。構法IIでは、床、壁、屋根、天井、階段などがどのように構成されているかを理解する。		
	施工	設計図書どおりの建物を安全かつ効率的に実現していく方法を施工学により理解する。地盤、基礎、躯体、仕上げ別に基本的な施工順序、施工方法、施工上の注意点を学ぶほか、最先端の施工技術についても理解する。施工演習は以上の基礎知識をもとに、現場管理者に不可欠な施工図作成や積算の方法を実習により身につける。		
	維持管理	建築病理学では建物に生ずる劣化の診断方法や補修方法を体系的に学ぶ。また、ファシリティ・マネジメントでは、建築物の用途変更、最適再配分の基本的な考え方について学び、公共施設を中心とした建物の管理方法を身に付ける。以上を通して、建築物を長く使うことの重要性について理解する。		
環境・設備分野	環境・設備要素	建築・都市の生活空間を計画する上で必要となる熱・空気・光・音・水等の環境要素を安全かつ快適な状態に保つために必要となる建築・都市環境工学の基礎を学ぶ。それと共に、機械的な環境調整技術となる空調設備、給排水衛生設備、建築電気設備の概要とそれらの設計・計画を行うための基礎知識を身につける。		
	環境計画・デザイン	建築・環境学における環境工学と設備分野に関する基礎的な事項を理解した上で、省エネルギー、省資源で地球環境に配慮した建築・設備(ZEB・ZEH)の設計・計画を行うために必要となる計画手法を学ぶ。また、建物のライフサイクル、維持保全、コストの低減をも考慮した建築環境・設備の改修や更新について、基礎能力を養う。		
	システム演習・実験・実習	建築環境工学、給排水衛生設備、空調設備、電気設備を主体とした建築設備の実験を体験し、実践的な能力を習得する。同時に環境・設備設計演習を行い、計算法や図面化するための手法を習得する。また、コンピュータを用いた建築・環境シミュレーション手法を学び、解析手法を併用した環境・設備設計手法の基礎力を養う。現場・企業見学を通じ、社会の動向や、キャリア意識を培う。		
	省エネ・再エネ	建築・都市に関わる既存のガス・電気などのエネルギー技術に加え、太陽光、風力、地熱などの再生可能エネルギー技術の安全性や実用性等について学ぶ。また、省エネ、再生可能エネルギーのリサイクル手法とその有効性や課題点について学習し、環境負荷を低減した持続可能な循環型社会の構築(カーボンニュートラル)のために必要な総合的な能力を養う。		
	卒業研究	建築・環境学の総合的かつ体系的な学術体系を基盤とし、デザインとエンジニアリングの統合、環境との共生、既存の社会資源の維持・活用・再生、そして人々の持続する生活の質の向上など、現在の共生社会が必要とする諸課題を追究し、それに応える課題解決能力を身につける。		

	1・2セメスター				3・4セメスター				5・6セメスター				7・8セメスター			
	科目名称	DP	科目名称	DP	科目名称	DP	科目名称	DP	科目名称	DP	科目名称	DP	科目名称	DP	科目名称	DP
専門基幹科目	理工学概論	2														
ワークショップ	ドローイング ワークショップ	2.4.12	モデリング ワークショップ	2.4.12	ビルディング ・ワークショップ	2.3.4 11.12	ランドスケープ デザイン・ ワークショップ	2.3.4 8.10								
CAD	CAD演習 I	2.4.12	CAD演習 I	2.4.12	CAD演習 II	2.4.12	CAD演習 II	2.4.12								
数学・法規・測量	基礎数学 I	2.12	基礎数学 II	2.12	基礎数学 III	2.12			建築法規 A	2.3.7 12	建築法規 B	2.3.7 12				
											測量学及び実習	2.11 12				
建築設計製図	建築設計製図 I	2.4.7 8.12	建築設計製図 II	2.4.7 8.12	建築設計製図 III	2.4.7 8.12	建築設計製図 IV	2.4.7 8.12								
建築 エンジニアリング コース									建築構法設計製図	2.4.7	建築構造設計製図	2.4.7				
建築デザイン コース									建築 デザインスタジオ 1	1.2.3 4.6.7 8	建築 デザインスタジオ 2	1.2.3 4.6.7 8				
まちづくりデザイン コース									まちづくり デザインスタジオ 1	1.2.3 4.7.8	まちづくり デザインスタジオ 2	2.3.4 7.8	総合 デザインスタジオ	1.2.3 4.7.8		
すまいデザイン コース									すまい デザインスタジオ 1	1.2.4 6.7.8	すまい デザインスタジオ 2	1.2.4 6.7.8				
環境共生デザイン コース					サステイナブル 建築・環境学実習	2.4 10.11			パッシブ デザインスタジオ	2.4.7 8	建築環境 デザインスタジオ	2.4.7 8				
建築計画・デザイン	建築計画・ デザイン基礎	1.2			建築計画 I	1.2.4 6.7	建築計画 II	1.2.7	建築再生計画論	1.2.4 7						
都市	ランドスケープ						ランドスケープ論	2								
	都市・地域						まちづくり論	6.9.11 12	不動産学基礎 都市形成史	2.7 2.3.10	アーバンデザイン	2.4.7 10				
住宅						家族論	1.2.6 9	すまいデザイン論	2.4.9	住居史	1.2.4 6.9					
家具・インテリア・テキスタイル グラフィック・照明等									環境デザイン概論 A	2.4.6 9	環境デザイン概論 B	2.4.6 9				
歴史					日本建築史	2.6	西洋建築史	2.6	近代建築史	2.6						
構造力学			フレームの力学基礎	2.7	フレームの力学 I	2.7	フレームの力学 II	2.7	フレームの力学 III	2.7						
					静定フレーム演習	2.4.7	不静定フレーム演習	2.4.7								
各種構造・計画							建築構造計画	2.3.7	鉄骨構造 鉄筋コンクリート構造 木質構造	2.4.7 2.4.7 2.4.7	建築構造実験	2.4.7 8.11				
耐震・振動・応用							建築耐震工学概論	3.7	建築振動学	2.4.7	構造解析学	2.4.7	基礎・地盤力学 地震工学概論	2.7 3.7		
構造設計											構造設計 I	2.4.7	構造設計 II	2.4.7		
材料			建築生産・材料基礎	2.7	建築材料学 I	2.7	建築材料学 II	2.4.7								
							建築材料実験	2.4.7 8.11								
構法					建築構法 I	2.7	建築構法 II	2.4.7								
施工									建築生産	2.7	建築施工学	2.4.7	施工演習	2.4.7		
維持管理									建築病理学	2.7	ファシリティ・ マネジメント	2.3.4 7.8.10 11.12				
環境・設備要素			建築環境・設備基礎	1.2.12	建築熱環境	2.12	建築水環境	2.12	建築電気設備論	2.12	建築・都市環境	2.12				
					建築光・音環境	2.12	建築空気環境	2.12								
環境計画・デザイン									建築設備計画	2.4.12	環境設備リニュー アル	2.12				
システム演習・実験									パッシブデザイン	2.12						
									建築環境・設備実験	2.4.11 12	建築環境・設計演習	2.4.12				
省エネ・再エネ									建築環境 シミュレーション	2.4.11 12						
											建築環境エネルギー	2.12				
卒業研究													ゼミナール/ 卒業研究	1.2.4 7.8.10 11.12	卒業研究/ ゼミナール	1.2.4 7.8.10 11.12



必修科目



コース必修科目

備考: ディプロマ・ポリシー (DP) については以下に対応する番号とその内容を記す。

知識・理解	1. 自己理解と他者理解につながる幅広い教養 (※) を身につけている。(幅広い教養) (※) 総合大学の利点を活かした全学共通教養教育と学部独自の教養教育が含まれる。 2. 建築の意匠、歴史、構造、材料、環境・設備に関する基礎的知識を理解している。建築物を設計する知識に基づいて、図面を描くことができる。(専門分野に関する知識・理解) 3. 建築・環境学の観点から、「神奈川」の歴史・文化・風土等の特性を理解している。(地域に関する知識・理解)
技能	4. 建築の基礎的知識に基づいて、建築物を設計するプロセスを自ら実行する技術を持つ。(問題発見・解決力) 5. 国際社会において協働できるコミュニケーション力を有している。(国際協働力)
思考・判断 ・表現	6. 他者もつ社会的・文化的背景を理解したうえで、自己を客観視して思考することができる。(多文化での共生) 7. 倫理観と公平・公正の精神を持った事象の判断力を有するとともに、建築の基礎的知識に基づいて、建築物を設計するプロセスを理解している。(倫理観、公平・公正な判断) 8. 他者の意見に耳を傾けるとともに、自らの意見を適切な表現手段を用いて発信する能力を身につけるとともに、建築の基礎的知識に基づいて、建築物を設計するプロセスを理解している。(傾聴と発信)
関心・意欲 ・態度	9. 生涯にわたり、進んで知識・教養・技能を高めようとする意欲を持って、社会から見た建築の有意性と現在の問題点を追跡できる能力を有している。(生涯学び続ける意欲) 10. 社会・地域・組織の一員としての役割を果たそうとする主体性を身につけ、社会から見た建築の有意性と現在の問題点を追跡できる能力を有している。(社会参加への主体性) 11. 建築物の設計プロセスにおいて、豊富な知識と広い視野のもとに、様々な背景をもった他者を尊重して協働できる。(チームワーク、他者との協働) 12. 問題に対して誠実に向き合おうとする実践的態度を身につけている。社会から見た建築の有意性と現在の問題点を追跡できる能力を有している。(建学の精神の実践、奉仕動機)

		目的等		
専門基礎科目	専門基礎科目		理学、工学、工業の基礎的な事項を学び、建築・環境学の各分野がどのように位置づけられるかを学ぶ。	
	シロ	ワークショップ	ものを図面やデッサンで表現する技術、模型製作のスキル、模型を用いた建築空間の表現方法などを演習を通して学ぶ。また、仮想的な建築に関する対象物を協働し実際に建設することで、企画から設計、施工、解体、資材確保、再利用までを学ぶ。以上のような体験を通して、建築・環境学に必要な表現能力や企画力、協調性などを身につける。	
		CAD	建築設計を実施する際に必須となっているCADを利用できるスキルを、平面から立体、レンダリング表現まで演習を通して身につける。	
		数学・法規・測量	(数学系科目) 建築・環境学を学ぶ上で必要となる、数学、物理の基礎的な要素を学び、論理的思考を身につける。  (法規、測量学) 建築に関わる法規の適用方法を理解すること、また土地や建物を測量する技術を学び、実務的な展開能力を獲得する。	
	建築設計製図	建築設計における設計図の役割を理解し、立体物を平面に描くことを学び、建築物の各種図面、表現方法を理解する。その上で、学んできた建築の知識を統合して、住宅やオフィスビルなどの設計演習を実施し、基礎的な建築設計技術を習得する。		
建築・環境学部専門科目	コース・コア	建築エンジニアリングコース	建築構造サブコース 建築材料・施工サブコース 建築構造や材料・施工に関わる設計・施工、開発、維持管理といったエンジニアリング技術を専門とする分野に携わる人材を育成する。	
		建築デザインコース	建築に対する幅広い基礎的な素養を身につけると共に、構造、材料、環境・設備等の分野も総合的に考え、建築の計画・デザイン(設計)を実践できる感性と能力を有する人材を育成する。	
		まちづくりデザインコース	都市計画・地域デザインやまちづくり分野、また都市や建物の再生計画、リフォーム、コンバージョンなどを専門とする分野に携わる人材を育成する。	
		すまいデザインコース	すまいに関する知識をもとに、戸建住宅や集合住宅などの様々な用途の住宅の計画と設計やインテリアと家具のデザイン、さらには住居後のメンテナンスとリフォームに関する分野まで幅広く携わる人材を育成する。	
		環境共生デザインコース	建物の環境・設備に関わる設計・施工、開発、維持管理といったエンジニアリング技術を専門とする分野、さらにそれらの技術と建築設計とを総合的に捉えてデザインする分野に携わる人材を育成する。	
	デザイン分野	建築計画・デザイン	建築デザインの基礎を学び、建築設計に必要なとされる素養を身につけるための領域である。初年次では、人間工学や環境心理学、デザイン理論等の観点から、建築デザインの基礎知識を習得する。次に建築計画学の諸知見を演習を通して学び、空間構成の手法を総合的に身につける。さらに既存建物を有効活用する保存・再生計画に必要な知識や能力を習得する。	
		都市	ランドスケープ	都市デザインの内、景観や環境に関する内容を学ぶ領域である。歴史的・風土的側面を踏まえて、風景計画や造園、ランドスケープをデザインする際に必要とされる諸知識及び方法論と応用力を身につける。
			都市・地域	都市デザインの内、経済的、歴史的、物的、法的側面を習得する領域である。過去・現在・未来が連続する都市の空間構造、都市基盤の法的整備手法、都市計画の実務を理解し、都市空間の計画に必要な総合的理解力を身につける。
		住宅	住まいのデザインに関する基礎知識を身につける領域である。個人と家族と社会の関係、家族における世代や性、少子高齢社会等の問題を理解し、住宅を文化的、地域的、風土的な視点から読み解く力を養う。建築をめぐる経済・法律・環境面の実学的知識を学び、それらを住空間のデザインに活かす応用力を身につける。	
		家具・インテリア・テキスタイルグラフィック・照明等	商業施設、オフィス、住宅等のインテリアデザインに関する内容を学ぶ領域である。スケールにとらわれない環境デザインのありかたを学ぶ。また、家具のデザインと製作を通して、ものづくりの基礎である、原寸で考える習慣とデザインのバランスを身につける。	
		歴史	建築の歴史について、通史的に学ぶ領域である。日本と西洋における、古代から近代までの時代様式の変遷を理解して、建築デザインを学ぶ上での基礎的教養を身につける。また、近代における建築理論の変遷のアウトラインを理解する。	
	構造分野	構造力学	力学を学び、梁やフレーム、トラス構造物の応力や変形の計算方法を知る。構造設計の理論背景を理解することで、設計コードを適切に捉える素養を身につけると共に、建築物の持つ力の流れと形との関係を理解する素地を作る。	
		各種構造・計画	代表的な構造の特徴を理解した上で、設計方法や接合部などの詳細までを学び、実験から実挙動を観察し、理論との整合性を確認する。また、建築物の構造形式の分類と適用事例を知り、適切な構造形式を選択できる能力を養う。	
		耐震・振動・応用	我が国で必須となる耐震設計の体系を大まかな考え方からスタートし、建物振動の数学的取り扱い、コンピュータを用いた解析手法、地盤の影響などを学ぶことを通して理解する。現在の構造・耐震設計方法を読み解き、新たな設計試みへの展開能力を身につける。	
		構造設計	鉄骨構造、RC構造を対象に実務設計時の行程を、演習を通して理解し、構造設計業務を適切に履行できる能力を身につける。	
材料・施工分野	材料	建築生産・材料基礎では、建築生産分野への導入教育として建築材料および施工をなぜ学ぶ必要があるのかなど、今後の学習の動機づけを行う。建築材料関係の3科目では構造材料と仕上げ材料についてそれぞれの種類、製造法、特徴、使用方法の注意点を理解し、建築技術者として仕事をしていく上での基礎力を身につける。		
	構法	建築構法では、建物の構造原理や特徴、基本部材構成など、建築物を設計し施工するうえでの基礎となる知識を身につける。構法Iでは、主に構造の基礎知識習得を目指しており、木造、鉄筋コンクリート造、鉄骨造、その他構法を扱う。構法IIでは、床、壁、屋根、天井、階段などがどのように構成されているかを理解する。		
	施工	設計図書どおりの建物を安全かつ効率的に実現していく方法を施工学により理解する。地盤、基礎、躯体、仕上げ別に基本的な施工順序、施工方法、施工上の注意点を学ぶほか、最先端の施工技術についても理解する。施工演習は以上の基礎知識をもとに、現場管理者に不可欠な施工図作成や積算の方法を実習により身につける。		
	維持管理	建築病理学では建物に生ずる劣化の診断方法や補修方法を体系的に学ぶ。また、ファシリティ・マネジメントでは、建築物の用途変更、最適再配分の基本的な考え方について学び、公共施設を中心とした建物の管理方法を身に付ける。以上を通して、建築物を長く使うことの重要性について理解する。		
環境・設備分野	環境・設備要素	建築・都市の生活空間を計画する上で必要となる熱・空気・光・音・水等の環境要素を安全かつ快適な状態に保つために必要となる建築・都市環境工学の基礎を学ぶ。それと共に、機械的な環境調整技術となる空調設備、給排水衛生設備、建築電気設備の概要とそれらの設計・計画を行うための基礎知識を身につける。		
	環境計画・デザイン	建築・環境学における環境工学と設備分野に関する基礎事項を理解した上で、省エネルギー、省資源で地球環境に配慮した建築・設備(ZEB・ZEH)の設計・計画を行うために必要となる計画手法を学ぶ。また、建物のライフサイクル、維持保全、コストの低減をも考慮した建築環境・設備の改修や更新について、基礎能力を養う。		
	システム演習・実験・実習	建築環境工学、給排水衛生設備、空調設備、電気設備を主体とした建築設備の実験を体験し、実践的な能力を習得する。同時に環境・設備設計演習を行い、計算法や図面化するための手法を習得する。また、コンピュータを用いた建築・環境シミュレーション手法を学び、解析手法を併用した環境・設備設計手法の基礎力を養う。現場・企業見学を通じ、社会の動向や、キャリア意識を培う。		
	省エネ・再エネ	建築・都市に関わる既存のガス・電気などのエネルギー技術に加え、太陽光、風力、地熱などの再生可能エネルギー技術の安全性や実用性等について学ぶ。また、省エネ、再生可能エネルギーのリサイクル手法とその有効性や課題点について学習し、環境負荷を低減した持続可能な循環型社会の構築(カーボンニュートラル)のために必要な総合的な能力を養う。		
	卒業研究	建築・環境学の総合的かつ体系的な学術体系を基盤とし、デザインとエンジニアリングの統合、環境との共生、既存の社会資源の維持・活用・再生、そして人々の持続する生活の質の向上など、現在の共生社会が必要とする諸課題を追求し、それに応える課題解決能力を身につける。		

	1・2セメスター				3・4セメスター				5・6セメスター				7・8セメスター				
	科目名称	DP	科目名称	DP	科目名称	DP	科目名称	DP	科目名称	DP	科目名称	DP	科目名称	DP	科目名称	DP	
専門基幹科目	理工学概論	2															
ワークショップ	ドローイング ワークショップ	2.4.12	モデリング ワークショップ	2.4.12	ビルディング ・ワークショップ	2.3.4 11.12	ランドスケープ デザイン・ ワークショップ	2.3.4 8.10									
CAD	CAD演習 I	2.4.12	CAD演習 I	2.4.12	CAD演習 II	2.4.12	CAD演習 II	2.4.12									
数学・法規・測量	基礎数学 I	2.12	基礎数学 II	2.12	基礎数学 III	2.12			建築法規 A	2.3.7 12	建築法規 B	2.3.7 12					
											測量学及び実習	2.11 12					
建築設計製図	建築設計製図 I	2.4.7 8.12	建築設計製図 II	2.4.7 8.12	建築設計製図 III	2.4.7 8.12	建築設計製図 IV	2.4.7 8.12									
建築 エンジニアリング コース	建築構造 サブコース								建築構法設計製図	2.4.7	建築構造設計製図	2.4.7					
	建築 材料・施工 サブコース																
建築デザイン コース									建築 デザインスタジオ 1	1.2.3 4.6.7 8	建築 デザインスタジオ 2	1.2.3 4.6.7 8	総合 デザインスタジオ	1.2.3 4.7.8			
まちづくりデザイン コース								まちづくり デザインスタジオ1	1.2.3 4.7.8	まちづくり デザインスタジオ2	2.3.4 7.8						
すまいデザイン コース								すまい デザインスタジオ 1	1.2.4 6.7.8	すまい デザインスタジオ 2	1.2.4 6.7.8						
環境共生デザイン コース					サステナブル 建築・環境学実習	2.4 10.11			パッシブ デザインスタジオ	2.4.7 8	建築環境 デザインスタジオ	2.4.7 8					
建築計画・デザイン	建築計画・ デザイン基礎	1.2			建築計画 I	1.2.4 6.7	建築計画 II	1.2.7	建築再生計画論	1.2.4 7							
都市	ランドスケープ						ランドスケープ論	2									
	都市・地域						まちづくり論	6.9.11 12	不動産学基礎 都市形成史	2.7 2.3.10	アーバンデザイン	2.4.7 10					
住宅						家族論	1.2.6 9	すまいデザイン論	2.4.9	住居史	1.2.4 6.9						
家具・インテリア・テキスタイル グラフィック・照明等									環境デザイン概論 A	2.4.6 9	環境デザイン概論 B	2.4.6 9					
歴史					日本建築史	2.6	西洋建築史	2.6	近代建築史	2.6							
構造力学			フレームの力学基礎	2.7	フレームの力学 I	2.7	フレームの力学 I	2.7	フレームの力学 III	2.7							
					静定フレーム演習	2.4.7	不静定フレーム演習	2.4.7									
各種構造・計画							建築構造計画	2.3.7	鉄骨構造 鉄筋コンクリート構 造 木質構造	2.4.7 2.4.7 2.4.7	建築構造実験	2.4.7 8.11					
耐震・振動・応用							建築耐震工学概論	3.7	建築振動学	2.4.7	構造解析学	2.4.7	基礎・地盤力学 地震工学概論	2.7 3.7			
構造設計											構造設計 I	2.4.7	構造設計 II	2.4.7			
材料			建築生産・材料基礎	2.7	建築材料学 I	2.7	建築材料学 II	2.4.7	建築材料実験	2.4.7 8.11							
構法					建築構法 I	2.7	建築構法 II	2.4.7									
施工									建築生産	2.7	建築施工学	2.4.7	施工演習	2.4.7			
維持管理									建築病理学	2.7	ファシリティ・ マネジメント	2.3.4 7.8.10 11.12					
環境・設備要素			建築環境・設備基礎	1.2.12	建築熱環境	2.12	建築水環境	2.12	建築電気設備論	2.12	建築・都市環境	2.12					
					建築光・音環境	2.12	建築空気環境	2.12									
環境計画・デザイン									建築設備計画	2.4.12	環境設備リニュー アル	2.12					
システム演習・実験									建築環境・設備実験	2.4.11 12	建築設備・設計演習	2.4.12					
									建築環境 シミュレーション	2.4.11 12							
省エネ・再エネ											建築環境エネルギー	2.12					
卒業研究													ゼミナール/ 卒業研究	1.2.4 7.8.10 11.12	卒業研究/ ゼミナール	1.2.4 7.8.10 11.12	



必修科目



コース必修科目

備考: ディプロマ・ポリシー (DP) については以下に対応する番号とその内容を記す。

知識・理解	1. 自己理解と他者理解につながる幅広い教養 (※) を身につけている。(幅広い教養) (※) 総合大学の利点を活かした全学共通教養教育と学部独自の教養教育が含まれる。 2. 建築の意匠、歴史、構造、材料、環境・設備に関する基礎的知識を理解している。建築物を設計する知識に基づいて、図面を描くことができる。(専門分野に関する知識・理解) 3. 建築・環境学の観点から、「神奈川」の歴史・文化・風土等の特性を理解している。(地域に関する知識・理解)
技能	4. 建築の基礎的知識に基づいて、建築物を設計するプロセスを自ら実行する技術を持つ。(問題発見・解決力) 5. 国際社会において協働できるコミュニケーション力を有している。(国際協働力)
思考・判断・表現	6. 他者もつ社会的・文化的背景を理解したうえで、自己を客観視して思考することができる。(多文化での共生) 7. 倫理観と公平・公正の精神を持った事象の判断力を有するとともに、建築の基礎的知識に基づいて、建築物を設計するプロセスを理解している。(倫理観、公平・公正な判断) 8. 他者の意見に耳を傾けるとともに、自らの意見を適切な表現手段を用いて発信する能力を身につけるとともに、建築の基礎的知識に基づいて、建築物を設計するプロセスを理解している。(傾聴と発信)
関心・意欲・態度	9. 生涯にわたり、進んで知識・教養・技能を高めようとする意欲を持って、社会から見た建築の有意性と現在の問題点を追跡できる能力を有している。(生涯学び続ける意欲) 10. 社会・地域・組織の一員としての役割を果たそうとする主体性を身につけ、社会から見た建築の有意性と現在の問題点を追跡できる能力を有している。(社会参加への主体性) 11. 建築物の設計プロセスにおいて、豊富な知識と広い視野のもとに、様々な背景をもった他者を尊重して協働できる。(チームワーク、他者との協働) 12. 問題に対して誠実に向き合おうとする実践的態度を身につけている。社会から見た建築の有意性と現在の問題点を追跡できる能力を有している。(建学の精神の実践、奉仕動機)

◆：科目名変更あり。変更内容は科目表を参照のこと。

分野	1・2セメスター		3・4セメスター		5・6セメスター		7・8セメスター		卒業要件 単位数	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期		
必修科目	人文	キリスト教学(2)	キリスト教学 (技術者としての倫理)(2)						4単位	
	英語	総合英語(リーディング)(1) 春・秋学期：総合英語(オーラルコミュニケーション)(1) 春・秋学期：総合英語(ライティング)(1)	総合英語(リスニング)(1)						4単位	
選択必修科目	秋学期(1-8セメスター)：かながわ学(IT産業)(2) かながわ学(環境)(2) 春・秋学期(1-8セメスター)：KGUかながわ学(2)								2単位	
選択必修科目	英語	春学期(1-8セメスター)： 英語講読(科学・基礎)(1) 英語講読(科学)(1) 資格英語(TOEIC基礎)(1) 資格英語(TOEIC中級)(1) ◆【廃】資格英語(技術英検)(1) オールコミュニケーションI(1) 留学英語(1) 秋学期(1-8セメスター)： 英語講読(科学)(1) 英語講読(文学)(1) 資格英語(TOEIC中級)(1) ◆【廃】資格英語(技術英検)(1) 英語講読(論文)(1) 英語講読(時事英語)(1) ◆アカデミックプレゼンテーションI(1) アカデミックプレゼンテーションII(1) オールコミュニケーションII(1)								英語またはその他外国語科目から同一語科目で4単位
	外国語科目	秋学期(3-8セメスター)： 資格英語(TOEIC上級)(1) アカデミックライティングI(1) アカデミックライティングII(1)								
	ドイツ語	ドイツ語IA(文法)(1) ドイツ語IIA(読解)(1)	ドイツ語IB(文法)(1) ドイツ語IIB(読解)(1)							
	フランス語	フランス語IA(1)	フランス語IB(1)	フランス語IIA(1)	フランス語IIB(1)					
	中国語	中国語IA(1)	中国語IB(1)	中国語IIA(1)	中国語IIB(1)					
	スペイン語	スペイン語IA(1)	スペイン語IB(1)	スペイン語IIA(1)	スペイン語IIB(1)					
	ロシア語	ロシア語IA(1)	ロシア語IB(1)	ロシア語IIA(1)	ロシア語IIB(1)					
	日本語	日本語IA(1) 日本語IIA(1)	日本語IB(1) 日本語IIB(1)							
	複合	KGUキャリアデザイン入門1(1) KGUキャリアデザイン入門2(1)								
	人文	春学期(1-8セメスター)： 文学I(2) 哲学I(2) 歴史学I(2) 論理学I(2) 文化人類学I(2) 秋学期(1-8セメスター)： 日本事情(人文)(2)								
社会	春学期(1-8セメスター)： 経済学I(2) 社会学(2) 法学(2) 憲法(2) 政治学I(2) 心理学I(2) 秋学期(1-8セメスター)： 経済学II(2) 社会福祉論(2) 法学(2) 憲法(2) 政治学II(2) 心理学II(2) 日本事情(社会)(2)									
複合	教養セミナー(2) 春学期(1-8セメスター)：KGUデータサイエンス概論(2) 秋学期(1-8セメスター)：◆Japanese Culture and Society I(2) Japanese Culture and Society II(2) KGUデータサイエンス演習(2) 秋学期(2-5セメスター)：KGUキャリアデザイン基礎(2) 春学期(3-5セメスター)：KGUキャリアデザイン基礎2(2) 秋学期(3-8セメスター)：◆KGUキャリアデザイン応用(2) 春・秋学期(1-8セメスター)：ソーシャルサービス(2)									
保健体育科目	健康スポーツI(1)	健康スポーツII(1)	健康スポーツIII(1)	健康スポーツIV(1)	春学期(5-8セメスター)：健康スポーツV(1) 秋学期(5-8セメスター)：健康スポーツVI(1)					
外国語科目	春学期(3-8セメスター)：ドイツ語III A(1) 秋学期(3-8セメスター)：ドイツ語III B(1)									
演習	春・秋学期(1-8セメスター)：海外語学演習(英・中・韓・仏・独)(2)								自主選択学修科目	

専門基礎科目、専門基礎科目、専門応用科目、自主選択学修科目を含めて124単位以上

建築・環境学部専門基幹科目 教育課程表

2017年度以降入学生

◆：科目名変更あり。変更内容は科目表を参照のこと。

分野	1・2 Semester		3・4 Semester		5・6 Semester		7・8 Semester		卒業要件 単位数	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期		
専門基幹科目 選択	必修	概論目	理工学概論(2)							2単位
		数学	微分積分学Ⅰ(2) 線形数学Ⅰ(2) 代数学ⅠA(2) 幾何学ⅠA(2)	微分積分学Ⅱ(2) 線形数学Ⅱ(2) 代数学ⅠB(2) 幾何学ⅠB(2)	代数学ⅡA(2) 幾何学ⅡA(2) 微分方程式(2) 数理統計学Ⅰ(2) 複素関数論Ⅰ(2)	ベクトル解析(2) 数理統計学Ⅱ(2) 複素関数論Ⅱ(2)				共通科目、専門基礎科目、専門応用科目、自主選択学修科目を含めて124単位以上 専門基幹科目、専門基礎科目及び専門応用科目から20単位
		物理・ 学・生物 学・化学	物理学Ⅰ(2) 物理学Ⅱ(2) 化学Ⅰ(2) 生物学Ⅰ(2)	物理学Ⅲ(2) 物理学Ⅳ(2)	栽培Ⅰ(1)	栽培Ⅱ(1)				
		機械	機械工学総論Ⅰ(2)	機械工学総論Ⅱ(2)	木材加工Ⅰ(2) 金属加工Ⅰ(2) 機械実習(1)	木材加工Ⅱ(2) 金属加工Ⅱ(2)				
		電気			電気工学総論Ⅰ(2)	電気工学総論Ⅱ(2) 電気実習(1)				
		情報	情報基礎及び演習Ⅰ(2) 情報概論(2)	情報基礎及び演習Ⅱ(2)	プログラミング基礎(2) Webプログラミング(2)	プログラミング応用(2)				
		環境科目	環境社会論(2)	環境フィールド演習(2)	環境と化学(2) 環境地球科学Ⅰ(2)	環境生態学(2) 環境地球科学Ⅱ(2)	環境マネジメント(2)	環境と法(2)		
		インターン					春(5-6 Semester) : ◆KGUインターンシップ1 (事前指導) (1)	秋(6-7 Semester) : ◆KGUインターンシップ2 (実習) (1)	春学期(5-8 Semester) : 【廃】インターンシップA(2) (※1)	
		教職			春学期(1-8 Semester) : 職業指導1(2) 秋学期(1-8 Semester) : 職業指導2(2)					

※1：2017～2020年度入学生開講科目

		目的等		
専門基礎科目	専門基礎科目		理学、工学、工業の基礎的な事項を学び、建築・環境学の各分野がどのように位置づけられるかを学ぶ。	
	専門基礎科目	ワークショップ	ものを図面やデッサンで表現する技術、模型製作のスキル、模型を用いた建築空間の表現方法などを演習を通して学ぶ。また、仮想的な建築に関する対象物を協働し実際に建設することで、企画から設計、施工、解体、資材確保、再利用までを学ぶ。以上のような体験を通じて、建築・環境学に必要な表現能力や企画力、協調性などを身につける。	
		CAD	建築設計を実施する際に必須となっているCADを利用できるスキルを、平面から立体、レンダリング表現まで演習を通して身につける。	
		数学・法規・測量	(数学系科目) 建築・環境学を学ぶ上で必要となる、数学、物理の基礎的な要素を学び、論理的思考を身につける。 (法規、測量学) 建築に関わる法規の適用方法を理解すること、また土地や建物を測量する技術を学び、実務的な展開能力を獲得する。	
	建築設計製図	建築設計における設計図の役割を理解し、立体物を平面に描くことを学び、建築物の各種図面、表現方法を理解する。その上で、学んできた建築の知識を統合して、住宅やオフィスビルなどの設計演習を実施し、基礎的な建築設計技術を習得する。		
専門応用科目	コース・コア	建築エンジニアリングコース	建築構造や材料・施工に関わる設計・施工、開発、維持管理といったエンジニアリング技術を専門とする分野に携わる人材を育成する。	
		建築デザインコース	建築に対する幅広い基礎的な素養を身につけると共に、構造、材料、環境・設備等の分野も総合的に考え、建築の計画・デザイン(設計)を実践できる感性と能力を有する人材を育成する。	
		建築・都市再生デザインコース	都市計画・地域デザインやまちづくり分野、また都市や建物の再生計画、リフォーム、コンバージョンなどを専門とする分野に携わる人材を育成する。	
		すまいデザインコース	すまいに関する知識をもとに、戸建住宅や集合住宅などの様々な用途の住宅の計画と設計やインテリアと家具のデザイン、さらには住居後のメンテナンスとリフォームに関する分野まで幅広く携わる人材を育成する。	
		環境共生デザインコース	建物の環境・設備に関わる設計・施工、開発、維持管理といったエンジニアリング技術を専門とする分野、さらにそれらの技術と建築設計とを総合的に捉えてデザインする分野に携わる人材を育成する。	
	デザイン分野	建築計画・デザイン	建築デザインの基礎を学び、建築設計に必要なとされる素養を身につけるための領域である。初年次では、人間工学や環境心理学、デザイン理論等の観点から、建築デザインの基礎知識を習得する。次に建築計画学の諸知見を演習を通じて学び、空間構成の手法を総合的に身につける。さらに既存建物を有効活用する保存・再生計画に必要な知識や能力を習得する。	
		都市	ランドスケープ	都市デザインの内、景観や環境に関する内容を学ぶ領域である。歴史的・風土的側面を踏まえて、風景計画や造園、ランドスケープをデザインする際に必要とされる諸知識及び方法論と応用力を身につける。
			都市・地域	都市デザインの内、経済的、歴史的、物的、法的側面を習得する領域である。過去・現在・未来が連続する都市の空間構造、都市基盤の法的整備手法、都市計画の実務を理解し、都市空間の計画に必要な総合的理解力を身につける。
		住宅	住まいのデザインに関する基礎知識を身につける領域である。個人と家族と社会の関係、家族における世代や性、少子高齢社会等の問題を理解し、住宅を文化的、地域的、風土的な視点から読み解く力を養う。建築をめぐる経済・法律・環境面の実学的知識を学び、それらを住空間のデザインに活かす応用力を身につける。	
		家具・インテリア・テキスタイルグラフィック・照明等	商業施設、オフィス、住宅等のインテリアデザインに関する内容を学ぶ領域である。スケールにとらわれない環境デザインのありかたを学ぶ。また、家具のデザインと製作を通して、ものづくりの基礎である、原寸で考える習慣とデザインのバランスを身につける。	
		歴史	建築の歴史について、通史的に学ぶ領域である。日本と西洋における、古代から近代までの時代様式の変遷を理解して、建築デザインを学ぶ上での基礎的教養を身につける。また、近代における建築理論の変遷のアウトラインを理解する。	
	構造分野	構造力学	力学を学び、梁やフレーム、トラス構造物の応力や変形の計算方法を知る。構造設計の理論背景を理解することで、設計コードを適切に捉える素養を身につけると共に、建築物の持つ力の流れと形との関係を理解する素地を作る。	
		各種構造・計画	代表的な構造の特徴を理解した上で、設計方法や接合部などの詳細までを学び、実験から実挙動を観察し、理論との整合性を確認する。また、建築物の構造形式の分類と適用事例を知り、適切な構造形式を選択できる能力を養う。	
		耐震・振動・応用	我が国で必須となる耐震設計の体系を大まかな考え方からスタートし、建物振動の数学的取り扱い、コンピュータを用いた解析手法、地盤の影響などを学ぶことを通じて理解する。現在の構造・耐震設計方法を読み解き、新たな設計試みへの展開能力を身につける。	
		構造設計	鉄骨構造、RC構造を対象に実務設計時の行程を、演習を通して理解し、構造設計業務を適切に履行できる能力を身につける。	
材料・施工分野	材料	建築生産・材料基礎では、建築生産分野への導入教育として建築材料および施工をなぜ学ぶ必要があるのかなど、今後の学習の動機づけを行う。建築材料関係の3科目では構造材料と仕上げ材料についてそれぞれの種類、製造法、特徴、使用方法の注意点を理解し、建築技術者として仕事をしていく上での基礎力を身につける。		
	構法	建築構法では、建物の構造原理や特徴、基本部材構成など、建築物を設計し施工するうえでの基礎となる知識を身につける。構法Iでは、主に構造の基礎知識習得を目指しており、木造、鉄筋コンクリート造、鉄骨造、その他構法を扱う。構法IIでは、床、壁、屋根、天井、階段などがどのように構成されているかを理解する。		
	施工	設計図書どおりの建物を安全かつ効率的に実現していく方法を施工学により理解する。地盤、基礎、躯体、仕上げ別に基本的な施工順序、施工方法、施工上の注意点を学ぶほか、最先端の施工技術についても理解する。施工演習は以上の基礎知識をもとに、現場管理者に不可欠な施工図作成や積算の方法を実習により身につける。		
	維持管理	建築病理学では建物に生ずる劣化の診断方法や補修方法を体系的に学ぶ。また、ファシリティ・マネジメントでは、建築物の用途変更、最適再配分の基本的な考え方について学び、公共施設を中心とした建物の管理方法を身に付ける。以上を通して、建築物を長く使うことの重要性について理解する。		
環境・設備分野	環境・設備要素	建築・都市の生活空間を計画する上で必要となる熱・空気・光・音・水等の環境要素を安全かつ快適な状態に保つために必要となる建築・都市環境工学の基礎を学ぶ。それと共に、機械的な環境調整技術となる空調設備、給排水衛生設備、建築電気設備の概要とそれらの設計・計画を行うための基礎知識を身につける。		
	環境計画・デザイン	建築・環境学における環境工学と設備分野に関する基礎事項を理解した上で、省エネルギー、省資源で地球環境に配慮した建築・設備(ZEB・ZEH)の設計・計画を行うために必要となる計画手法を学ぶ。また、建物のライフサイクル、維持保全、コストの低減をも考慮した建築環境・設備の改修や更新について、基礎能力を養う。		
	システム演習・実験・実習	建築環境工学、給排水衛生設備、空調設備、電気設備を主体とした建築設備の実験を体験し、実践的な能力を習得する。同時に環境・設備設計演習を行い、計算法や図面化するための手法を習得する。また、コンピュータを用いた建築・環境シミュレーション手法を学び、解析手法を併用した環境・設備設計手法の基礎力を養う。現場・企業見学を通じ、社会の動向や、キャリア意識を培う。		
	省エネ・再エネ	建築・都市に関わる既存のガス・電気などのエネルギー技術に加え、太陽光、風力、地熱などの再生可能エネルギー技術の安全性や実用性等について学ぶ。また、省エネ、再生可能エネルギーのリサイクル手法とその有効性や課題点について学習し、環境負荷を低減した持続可能な循環型社会の構築(カーボンニュートラル)のために必要な総合的な能力を養う。		
	卒業研究	建築・環境学の総合的かつ体系的な学術体系を基盤とし、デザインとエンジニアリングの統合、環境との共生、既存の社会資源の維持・活用・再生、そして人々の持続する生活の質の向上など、現在の共生社会が必要とする諸課題を追求し、それに応える課題解決能力を身につける。		

	1・2セメスター				3・4セメスター				5・6セメスター				7・8セメスター			
	科目名称	DP	科目名称	DP	科目名称	DP	科目名称	DP	科目名称	DP	科目名称	DP	科目名称	DP	科目名称	DP
専門基幹科目	理工学概論	2														
ワークショップ	ドローイングワークショップ	2.4.12	モデリングワークショップ	2.4.12	ビルディング・ワークショップ	2.3.4 11.12	ランドスケープデザイン・ワークショップ	2.3.4 8.10								
CAD	CAD演習 I	2.4.12	CAD演習 I	2.4.12	CAD演習 II	2.4.12	CAD演習 II	2.4.12								
数学・法規・測量	基礎数学 I	2.12	基礎数学 II	2.12	基礎数学 III	2.12			建築法規 A	2.3.7 12	建築法規 B	2.3.7 12				
	文系のための建築数学・物理	2.12									測量学及び実習	2.11 12				
建築設計製図	建築設計製図 I	2.4.7 8.12	建築設計製図 II	2.4.7 8.12	建築設計製図 III	2.4.7 8.12	建築設計製図 IV	2.4.7 8.12								
建築エンジニアリングコース	建築構造サブコース								建築構法設計製図	2.4.7	建築構造設計製図	2.4.7				
	建築材料・施工サブコース															
建築デザインコース									ハウジングデザインスタジオ	1.2.3 4.6.7 8	地域施設デザインスタジオ	1.2.3 4.6.7 8	建築・都市デザインスタジオ	2.3.4 7.8		
建築・都市再生デザインコース									建築再生デザインスタジオ	1.2.3 4.7.8	都市再生デザインスタジオ	2.3.4 7.8				
すまいデザインコース							住宅ケーススタディ演習	1.2.4 6.7.8 10	住宅インテリアデザインスタジオ	1.2.4 6.7.8	住宅設計スタジオ	1.2.4 6.7.8	すまいデザインスタジオ	1.2.4 7.8		
環境共生デザインコース									パッシブデザインスタジオ	2.4.7 8	建築環境デザインスタジオ	2.4.7 8				
建築計画・デザイン	建築計画・デザイン基礎	1.2			建築計画 I	1.2.4 6.7	建築計画 II	1.2.7	建築再生計画論	1.2.4 7						
							建築デザイン論	2.7								
都市	ランドスケープ				サウンドスケープデザイン	1	ランドスケープ論	2								
	都市・地域						まちづくり論	6.9.11 12	不動産学基礎	2.7	アーバンデザイン	2.4.7 10	都市・地域計画論	2.3.7 9.10		
住宅							家族論	1.2.6 9	すまいデザイン論	2.4.9	住居史	1.2.4 6.9				
家具・インテリア・テキスタイルグラフィック・照明等									インテリアデザイン	2.4.6 9	ファニチャーデザイン	2.4.6 9				
歴史					日本建築史	2.6	西洋建築史	2.6	近代建築史	2.6	建築理論史	2.6				
構造力学			フレームの力学基礎	2.7	フレームの力学 I	2.7	フレームの力学 II	2.7	フレームの力学 III	2.7						
					静定フレーム演習	2.4.7	不静定フレーム演習	2.4.7								
各種構造・計画							建築構造計画	2.3.7	鉄骨構造	2.4.7	建築構造実験	2.4.7 8.11				
耐震・振動・応用							建築耐震工学概論	3.7	建築振動学	2.4.7	構造解析学	2.4.7	基礎・地盤力学	2.7		
													地震工学概論	3.7		
構造設計											構造設計 I	2.4.7	構造設計 II	2.4.7		
材料			建築生産・材料基礎	2.7	建築材料学 I	2.7	建築材料学 II	2.4.7			インテリア材料・施工	2.7				
							建築材料実験	2.4.7 8.11								
構法					建築構法 I	2.7	建築構法 II	2.4.7								
施工									建築施工学 I	2.7	建築施工学 II	2.4.7	施工演習	2.4.7		
									建築生産	2.7						
維持管理									建築病理学	2.7	ファシリティ・マネジメント	2.3.4 7.8.10 11.12				
環境・設備要素			建築環境・設備基礎	1.2.12	建築熱環境	2.12	建築水環境	2.12	建築電気設備論	2.12	建築・都市環境	2.12	建築環境・設備応用	2.4.12		
					建築光・音環境	2.12	建築空気環境	2.12	都市環境	2.12						
環境計画・デザイン								建築設備計画	2.4.12	環境設備リニューアル	2.12	環境設備維持保全	2.12			
システム演習・実験									建築環境・設備実験	2.4.11 12	建築設備・設計演習	2.4.12				
									建築環境シミュレーション	2.4.12						
省エネ・再エネ										建築環境エネルギー	2.12					
										資源リサイクル	2.12					
卒業研究												ゼミナール/卒業研究	1.2.4 7.8.10 11.12	卒業研究/ゼミナール	1.2.4 7.8.10 11.12	

■ 必修科目 □ コース必修科目

備考: ディプロマ・ポリシー (DP) については以下に対応する番号とその内容を記す。

知識・理解	1. 自己理解と他者理解につながる幅広い教養 (※) を身につけている。(幅広い教養) (※) 総合大学の利点を活かした全学共通教養教育と学部独自の教養教育が含まれる。
	2. 建築の意匠、歴史、構造、材料、環境・設備に関する基礎的知識を理解している。建築物を設計する知識に基づいて、図面を描くことができる。(専門分野に関する知識・理解)
	3. 建築・環境学の観点から、「神奈川」の歴史・文化・風土等の特性を理解している。(地域に関する知識・理解)
技能	4. 建築の基礎的知識に基づいて、建築物を設計するプロセスを自ら実行する技術を持つ。(問題発見・解決力)
	5. 国際社会において協働できるコミュニケーション力を有している。(国際協働力)
思考・判断・表現	6. 他者がもつ社会的・文化的背景を理解したうえで、自己を客体化して思考することができる。(多文化での共生)
	7. 倫理観と公平・公正の精神を持った事象の判断力を有するとともに、建築の基礎的知識に基づいて、建築物を設計するプロセスを理解している。(倫理観、公平・公正な判断)
関心・意欲・態度	8. 他者の意見に耳を傾けるとともに、自らの意見を適切な表現手段を用いて発信する能力を身につけるとともに、建築の基礎的知識に基づいて、建築物を設計するプロセスを理解している。(傾聴と発信)
	9. 生涯にわたり、進んで知識・教養・技能を高めようとする意欲を持って、社会から見た建築の有意性と現在の問題点を追跡できる能力を有している。(生涯学び続ける意欲)
	10. 社会・地域・組織の一員としての役割を果たそうとする主体性を身につけ、社会から見た建築の有意性と現在の問題点を追跡できる能力を有している。(社会参加への主体性)
	11. 建築物の設計プロセスにおいて、豊富な知識と広い視野のもとに、様々な背景をもった他者を尊重して協働できる。(チームワーク、他者との協働)
	12. 問題に対して誠実に向き合おうとする実践的態度を身につけている。社会から見た建築の有意性と現在の問題点を追跡できる能力を有している。(建学の精神の実践、奉仕動機)